

# 当別町地域公共交通活性化協議会

平成20年2月1日設置  
平成20年3月26日連携計画策定



## 概要

当別町は、地形が南北に長いほか、東西に市街地が二極化しており、また、札幌市や江別市といった都市に隣接していることなどによって、自動車への依存が非常に高い地域であるが、コミュニティバスの運行、公共交通利用促進策の実施、公共交通サービスの情報提供等により、町内交通モードを自動車から公共交通へ転換させる。

### ○「当別ふれあいバス」の運行

- ・当別町、北海道医療大学、北洋株式会社、医療法人社団とうべつ整形外科の4者による費用負担により、コミュニティバス「当別ふれあいバス」の運行を継続。
- ・JRあいの里公園駅からJR最終便に接続した「深夜バス」を新たに運行。
- ・バスを利用して図書や農産物・郵便物を輸送する「物流システム」の導入を検討。

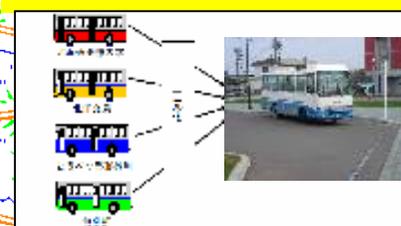
### ○設備の充実

- ・バス停留所のデザインの改善や待合所の設置を進める。
- ・ノンステップバスの導入を検討。
- ・JR石狩当別駅及び石狩太美駅等において、バス・JRの運行状況等を表示する情報提供システムを整備。
- ・バス車内の音声アナウンスシステムを導入。

### ○公共交通の利用促進策の実施

- ・住民等に対し、利用促進パンフレットやニュースレターの配布、講演会やセミナーの実施、定期的なアンケートの実施等。
- ・小中学生に対し、「交通すごろく」や「交通日記」による交通教育を実施。
- ・使用済みてんぷら油の回収システムを導入し、BDFを製造して、バスの燃料とする。
- ・ラッピングバスの運行。
- ・ノーマイカーデーを実施。

### 複数のバスを統合した当別版コミュニティバスの運行



### 待合所設置



### 情報提供システム整備



### 市街地循環バス 買い物バス

### JR最終便に接続した 深夜バスの運行



国土地理院発行20万分の1地勢図より

# 北近畿タンゴ鉄道沿線における公共交通ネットワークの改善 [宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町（京都府）]

20年度予算額:27百万円  
事業年度:平成20~22年度

利用者の視点に立って、鉄道やバス等の「ダイヤ」、「運賃」、「駅・停留所」、「車両」、「情報提供」、といった交通システムの基礎的な部分を改善することにより、全ての人にとって「分かりやすく」、「使いやすい」、面的な公共交通ネットワークを実現することを目標とする。

**鉄道・バス車両ラッピング、イベント列車運行、駅活性化、パーク&レール、総合交通マップの作成等情報提供、利用啓発事業等を実施。**→住民の『マイレール、マイバス意識』の醸成。



・駅周辺で、住民と花の植栽運動  
清掃活動、ベンチ・手すり設置



・バス車内でのフォトコンテスト、園児の  
絵画展などイベント実施



・地元高校生のデザインによる  
ラッピングバス運行。実証運行



・ラッピング車両、キャラクター、  
イベント列車の運行

・パーク&レール事業  
・レンタサイクルの整備



・鉄道、バスの総合交通マップ、  
鉄道とのダイヤ接続表作成  
・HP、ポスター作成

# 地域と一体で鉄道の活性化に取り組んでいる例（和歌山電鐵）

- 平成15年に南海電鐵が貴志川線の廃止検討を表明
- 存続に向けた住民の動きも踏まえ、沿線自治体が鉄道用地の買取を決定
- 運行主体については、公募により決定され、岡山電氣軌道の子会社である和歌山電鐵が運行
- 沿線住民等による支援と観光を中心とした取組により活性化を図っているところ

## 沿線住民等による和歌山電鐵への支援

### 話題性を呼ぶデザイン改装による利用促進

- いちご電車への改装に**サポーターを募集**。**約2,500人以上**の応募あり。
- 貴志川特産の「いちご」**や**地域で成長著しい「おもちゃ」**のデザインと、つり革やベンチシート、家具等、今まであまり木を使わなかったところにむく材を効果的に使用した**車両のリニューアルを実施**。
- 総合事業にて猫駅長をモチーフにした「たま列車」を認定。



<いちご電車>

<おもちゃ電車>

### 話題性を高めることによる利用促進

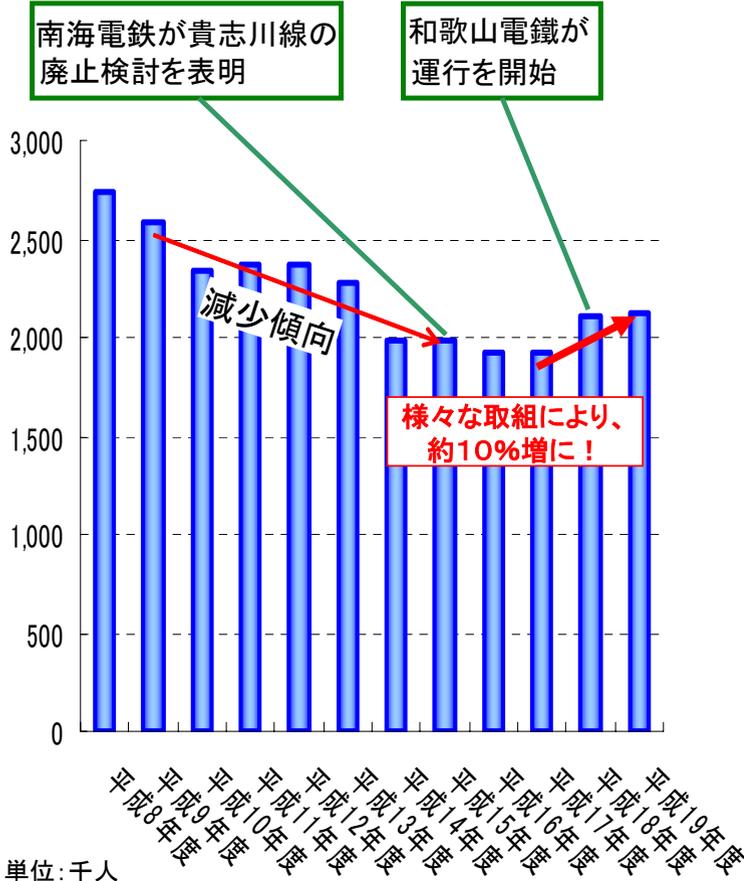
- 駅に併設する小売店の飼い猫「たま」「ミーコ」「ちび」が、当該駅の駅長や助役に任命され、話題づくりと利用促進を図っている。（「たま」の写真集は有名出版社から発行）



<駅長の「たま」>

出典：和歌山電鐵ホームページ、和歌山大学辻本勝久准教授提供資料等をもとに鉄道局作成

## 貴志川線の年間輸送人員の推移



南海電鐵が貴志川線の廃止検討を表明

和歌山電鐵が運行を開始

減少傾向

様々な取組により、約10%増に！

# 環七シャトル（東京都江戸川区）

## 経緯

### ✓ 江戸川区地域公共交通総合連携計画

南北に長い地形であるうえ、南北移動には複数回の乗継ぎが必要という区内南北交通の課題を解決するため、基幹公共交通軸として南北に走るシャトルバスを導入する。運行にあたっては速達性・定時性向上を図るとともに、並行して走る一般バス路線との連携を図り、シャトルバスから一般バスへの乗継ぎ等の利便性の向上も図っていく。

## 概要

- ◇ルート 小岩・亀有～葛西臨海公園駅  
(～東京ディズニーリゾート)
- ◇運行本数 平日100便 土休日96便
- ◇運賃 200円均一(TDRまでの利用:200円～400円)

## 特徴・効果

- ✓ 南北を結ぶシャトルバスの運行
  - ▽主要バス停を結ぶ急行バス、21年度に本格運行予定
- ✓ モデルバス停整備
  - ▽上屋付きのハイグレードバス停を設置
- ✓ シャトルバス専用車両の導入
  - ▽快適性の向上など通常の路線バスと違う車両を導入
- ✓ 走行環境改善方策の検討
  - ▽定時性、速達性向上に向け、バスレーンやPTPSの導入

## 路線バス等

《活用した助成制度》  
地域公共交通活性化・再生総合事業

東京都江戸川区



運行委託契約

バス会社

※運送法第4条による運行



【モデルバス停(イメージ)】



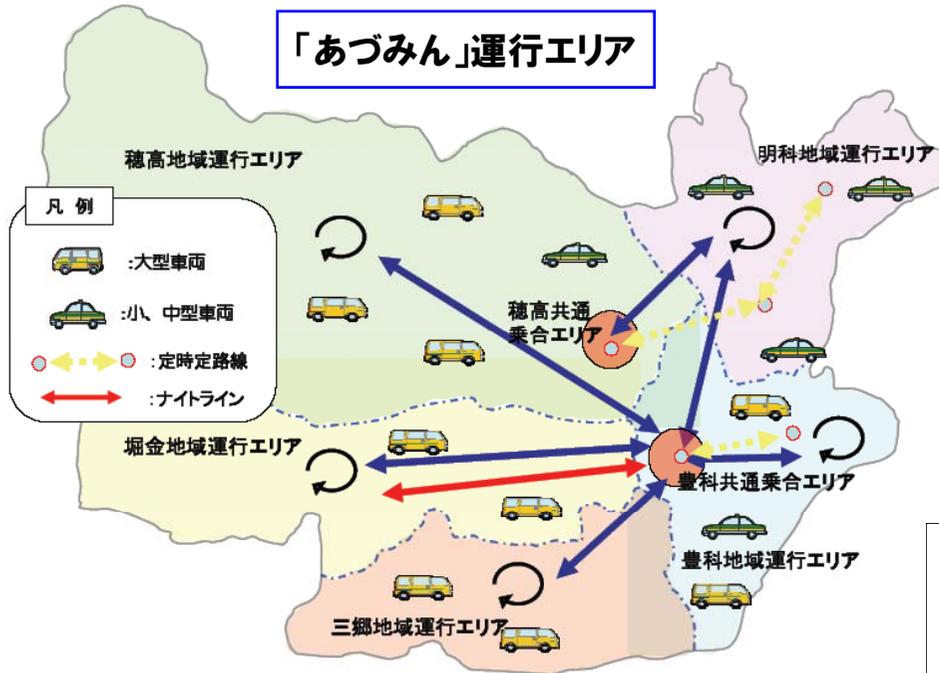
【環七シャトルバス「シャトル☆セブン」】



# 安曇野市におけるデマンド交通の実証運行【安曇野市（長野県）】

## ●事業概要

- 長野県安曇野市(平成17年10月5町村が合併、人口約10万人)では、合併後の地域公共交通の確保・充実及び、地域間の交流や連携ができる、新たな公共交通システムの構築を図るため、平成18年7月に関係者の連携の下「安曇野地域における公共交通システム構築」検討委員会を設置し検討を行ってきた。
- 平成19年9月から市内全域をカバーする大規模なデマンド交通システム「あづみん」の実験運行を実施し、利用者数を着実に伸ばしている。



## 安曇野市デマンド交通

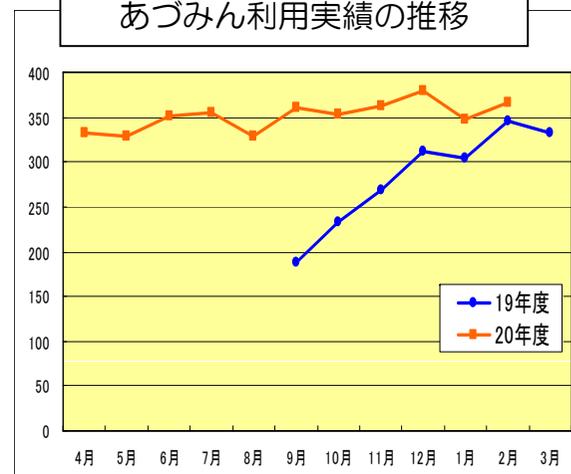
| 旧システム  | 新システム  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>市営バス、循環バス</li> <li>地域振興バス</li> <li>デマンド交通</li> <li>外出支援事業(高齢者)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>定時定路線(3路線)</li> <li>デマンド交通</li> </ul> |

- デマンド車両数は14台。
- 料金は、大人(中学生以上)300円、小学生100円、障害者100円、未就学児 無料。
- 平成19年9月10日運行開始。

## ●利用状況 [平成21年2月末現在の状況]

|           |         |
|-----------|---------|
| 登録者数      | 24,389人 |
| (参考値)人口   | 99,468人 |
| 平成20年利用者数 | 83,640人 |
| 1日平均利用者   | 約350人   |

## あづみん利用実績の推移



|       | 計      | 1日平均  |
|-------|--------|-------|
| H19年度 | 38,476 | 287.1 |
| H20年度 | 77,888 | 350.8 |

[平成21年2月末現在の状況]

注:平成19年9月は、10日に運行開始のため運行日が少ない。